

ろうどうくみあい しやかい か ちから
労働組合こそ社会を変える力だ

どうろうちば じかん つづ しゆんとうしやうり すがせいけん だとう
動労千葉 4 8 時間ストに続き、2 1 春闘勝利・菅政権打倒を

じんみん れんたい
ミャンマー人民と連帯しよう

こくぐん たい じんみん ろうどうしやかいきゆう いのち たたか つづ
国軍クーデターに対するミャンマー人民、労働者階級の命がけの闘いが続
いている。ともに闘おう。一握りの人間のために圧倒的多数の人民が犠牲にさ
れる現実には日本も同じだ。コロナ禍で女性の失業や自殺が急増している。政府
は、東京五輪に 3 兆円もの税金を投入しながら、十分な補償もせずに緊急
事態宣言を繰り返し、労働者を苦しめている。一体この国のどこに民主主義があ
るといえるのか！ この腐りきった社会を変えるためには、労働運動の現実を変え
ることだ。労働者は資本との日常的な闘いを通して自らの持つ力に目覚め、
職場や地域をこえて団結し、社会を変えるための主体的な力を形成することが
できる存在だ。

も あ ろうどうしや いか
燃え上がる労働者の怒り

すがしゆしやう ちやうなん つと ほうそう じぎやうがいしや そう む しやうかん ぶ こうがく せつたい おこな
菅首相の長男が勤める放送事業会社が総務省幹部に高額な接待を行って
いたことに続き、NTT が当時総務相であった野田聖子自民党幹事長代行や高
市早苗衆院議員、現職の武田良太総務相らを接待していたことが明らかとな
った。菅が進める「デジタル社会」の先頭に立っているのが総務省と NTT だ。
「デジタル化」とは全産業での徹底した合理化と、全個人情報国家・資本に
よる一元的管理の推進であり、労働者の低賃金化・非正規職化をいま以上に進
めるものだ。労働者を犠牲にして生まれる膨大な利益に群がっているのが菅政権

であり、彼らが守っているのも一握りの資本家の利益ではないか！
 日本の労働者も女性たちも、もう黙ってはいない！ 3月8日に大阪府高槻市
 で、高槻医療福祉労働組合の看護師たちが待遇改善を求めてストライキを決行
 した。コロナによる経営難を理由に一時金が削減され離職者が相次いでいるこ
 とに対し、同労組は「地域医療を守ることと医療労働者を守ることは一つだ」
 と訴えている。また、首都圏の自治体では、人員不足によって保健師たちが深夜
 に及ぶ長時間労働を強いられていることに対し、職員の有志によって「保健師
 を休ませろ」との市長への申し入れが闘われた。さらに、首都圏の特養老人ホ
 ームで働く看護師は、職場で署名を集め、コロナで休業となった職員全員
 が労災申請を行うことを法人に認めさせ、100%の賃金補償を勝ち取ってい
 る。

ハローワークの相談員である非正規労働者たちが、3月末で大量に雇い止め
 されることに反対して立ち上がったことも報道された。コロナによる倒産、廃業
 に伴う解雇、非正規職の雇い止めなど、特に女性労働者の失業は、単なる業
 績低迷や経営不振に伴う一般的現象ではない。公的部門の民営化や業務の外
 注化、それに伴う非正規職化を核心とする新自由主義の攻撃と、何よりも攻撃
 に立ち向かうことができないでいる労働組合運動の後退によって生じている問
 題だ。

地域と結合する労働運動

アメリカのBLM運動、韓国の「ろうそく革命」、香港やミャンマーでの圧制
 と闘い民主主義を求める闘いなど、社会の根底的変革をめざす闘いの発展に

は労働組合の存在と闘いが大きく関与している。資本主義社会に対抗する労働者の大衆的な力として労働組合が存在していることを世界の闘いは示している。

しかし、これほど社会に激しい階級対立が存在しているにもかかわらず、日本では労働組合が労働者にとって最も大切なよりどころだということ自体も見えなくされている。

この現実を根底から変えることだ。職場から声を上げ、闘いを開始すること、この中から日本の労働運動をよみがえらせることは絶対にできる。

3月12～14日、国鉄千葉動力車労働組合（動労千葉）は48時間のストライキに立ち上がった。13日のダイヤ改定でJR千葉支社が内房線、外房線、鹿島線でワンマン運転を強行したことに反対するストライキだ。ワンマン化は運転士一人にすべての責任を押し付け、労働強化を強い、鉄道の安全を破壊する攻撃である。それと同時にワンマン化は、将来、廃線にすることをも見据えた地方切り捨ての攻撃でもある。内房線沿線住民、特に体に障害を持つ人たちから、ワンマン運転が引き起こす様々な問題に深刻な意見が相次いで出され、「ワンマン運転導入の中止を求める署名」が館山市や鴨川市、南房総市など地域を挙げて取り組まれてきた。今回の動労千葉のストライキは、こうした地域住民の怒りと広く、深く結びつく形で闘われた。

動労千葉は、国鉄分割・民営化に絶対反対を貫き、今もJRの責任を追及して闘い続け、駅の無人化につながるJR業務の外注化にも約10年にわたって絶対反対で闘ってきた。動労千葉は新自由主義攻撃の核心をなす民営化や外注化と闘うことを通して、地域や社会の課題を自らの課題として闘っている。

また、船橋二和病院労組や東京の一陽会労組、高槻医療福祉労組などコロナ下に闘われたストライキは、「もうける医療」による現場への合理化を許さ

ないことと、^{ぎょうせい}行政によって切り捨てられてきた^{き す}医療を^{いりよう}社会保障として取り戻すことを一つの課題にして闘い、^{しやくば}職場の労働者だけでなく、^{かんじや}患者や^{ちいきじゆうみん}地域住民からも多くの支持を得た。^{ろうどうくみあい}労働組合が自らの^{ろうどうじようけん}労働条件の問題だけでなく、^{しやかい}社会全体が^{ちやくめん}直面する課題を自らの^{かだい}闘いとした時、^{みずか}階級的な役割を現に果たすことができる。^{しんじゆうしゆぎ}新自由主義が^{しやかい}社会を崩壊させ、^{ほうかい}コロナによってその^{げんじつ}現実が暴かれた今、^{いま}動労千葉や^{どうろうちば}医療・^{いりよう}介護労働者の^{かいごろうどうしや}闘いは、^{たたか}日本の^{にほん}労働運動が進むべき^{ろうどううんどう}普遍的道筋^{すす}を示している。

関生支部への弾圧粉碎を

いまひとつ、^{かんさいなま}関西生コン支部への^{しぶ}弾圧を打ち破る^{だんあつ}闘いは日本の^{う やぶ}労働運動の再生^{たたか}をかけた^{にほん}重大な^{ろうどううんどう}闘いだ。^{さいせい}昨年^{じゆうだい}の秋以降、^{たたか}大阪地裁や^{さくねん}京都地裁で「事件」に対^{あきいこう}する^{おおさかちさい}反動判決が次々に出されている。^{きよう}組合の^とストライキが「威力業務妨害」と^{いりよくぎようむぼうがい}され、^{ひせい}非正規労働者の^{きろうしや}正社員化要求や^{せいしやいん}保育園に提出するための^{かようきゆう}就労証明を会^{ほいくえん}社に求めたことが「強要」の^{ていしゆつ}実行行為だとされて、^{しゆうろうしよめい}関西生コン支部の^{がい}組合員に^{しや}懲役刑が^{もと}言い渡されている。^{きようよう}憲法や^{じつこうこうい}労組法という^{かんさいなま}形で^{しぶ}勝ち取られてきた^{くみあい}労働組^{ちようえきけい}合活動^いを^{わた}刑事弾圧によって^{けんぼう}否定し、「^{ろうそほう}労働組合のない^{かたち}社会」をつくり出そうとす^かる^と極反動の^{ろうどうくみ}判決だ。^{あいかつどう}全国に^{けいじだんあつ}支援運動をつくり、^{ひてい}反撃を^{ろうどうくみあい}組織しよう。^{しやかい}

何よりも^{なに}職場から^{しやくば}闘いに立ち上がることだ。^{た た あ}3月は36協定締結などで^{がつ}職場代表選挙が行われる^{さぶろく}職場も多い。^{きようていていけつ}職場代表選は^{しやくば}職場の^{おこな}不満や怒りを^{しやくば}組織^{ふまん}する契機にもなる。^{いか}また、4月からは「^{そしき}同一労働・同一賃金」が^{けいき}中小企業に^がも適用される。^{どういつろうどう}職場代表選などを^{どういつちんぎん}きっかけに、^{ちゆうしよ}春闘の^{きぎよう}取り組みを^{てきよう}労働組合と^{しやくば}して^{だひひようせん}提起し、^{しゆんどう}職場の^{とく}声を^{ろうどうくみあい}まとめて^く要求し、^{ろうどうくみあい}団体交渉^{とく}を行い、^{だんたいこうしよ}非正規労働者の^{おこな}

賃上げや労働条件の改善を求めるなど、闘いをつくり出していくチャンスだ。

2月に開催された全国労働組合交流センターの定期総会で、関西生コン支部、全国金属機械労組港合同、動労千葉の3労組から共同代表が新たに選出され、11月労働者集會が呼びかけた「闘う労働組合の全国ネットワーク」づくりが本格的に始まった。この過程で革共同は第27回全国委員会総会を開催し、3労組の闘いに学び、コロナ下での職場・地域における必死の格闘を総括する中から、左翼空論主義を乗り越え、「新自由主義と対決し、資本主義を打倒する階級的労働運動をつくり出すことは可能だ」という確信をつかみ取ることができた。

新たな時代を切り開き、新しい社会をつくることのできるのは労働者の団結した力だ。21春闘から5・1メーデーへ！階級的労働運動を力強くよみがえらせ、菅政権を打倒しよう。